

河川基金助成事業

「四季の小貝川保育園 4」

報告書

助成番号：2019-7111-002

茨城県つくば市 ラ・フェリーチェ保育園

園長 高橋 晃雄

2019 年度

助成番号	助成事業名			学校名		
2018-7111-002	四季の小貝川保育園 4			ラ・フェリーチェ保育園		
校長名	高橋晃雄	担当教諭名	高橋晃雄			
過去の助成実績	なし ○あり [助成番号：2018-7111-002 助成事業名：四季の小貝川保育園 3]					
キーワード	「自然体験活動」「水遊び」「生物の観察」					
対象児童生徒	高校生 (年 名) 中学生 (年 名) 小学生 (年 名) 保育園児(年長 6名)					
対象河川名	小貝川・涸沼	活動場所の指定状況	なし ○子どもの水辺 水辺の楽校			
年間学習計画（シラバス）における本助成事業の位置づけ						
テーマ	身近な河川空間での四季を通した自然体験活動					
ねらい	①自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。②季節による四季変化に気付く。③生命の尊さに気付き、いたわり、大切に。④感じたことや考えたことを自分なりに表現する。					
評価の観点	プログラム後に園児が描いた絵日記から、子どもの変容を捉える。					
活動時期の予定	6-10月					
活動形態	総合的な学習の時間	各教科学習 ()	各教科学習 ()	学校行事	その他 (体験活動)	合計
上記の活動時間数	時間	時間	時間	3時間	30時間	33時間
支援者等（複数記入可）						
保護者	外部小学校	外部中学校	外部高校	外部大学	市民団体	専門家等
河川管理者	行政機関（博物館、資料館）等		関係団体（漁協、農協）等		企業	その他
支援概要	<ul style="list-style-type: none"> RAC 指導者による園児の指導と安全確保 (有)涸沼水産 代表 野口浩美氏によるシジミの採集と漁船乗船体験の協力 					
発表形態			成果作品			
学級単位	学年単位	○学校全体		絵日記と写真を保育室に展示		
対外発表 ()						
安全対策に関する課題						
問題点は、感じられなかった。						
活動の成果と今後の課題・展開						
<p>6-7月の長雨と千葉県・茨城県に大きな被害をもたらした台風15号、19号による増水によって、予定していた小貝川(取手市)での活動が不可能になった。そのため、フィールドを増水しても安全に活動できる涸沼(茨城町)に変更した。</p> <p>涸沼では、体験活動に適した環境があり、地元水産業者の協力を得て、予想以上の体験活動を実施することができた。</p> <p>小貝川と比べて涸沼は、増水時でも安全に活動ができることやラムサール条約に加盟する自然環境と多様な生物が生息すること、地元水産業者の協力が得られることから、今後も利用を検討したい。</p>						
活動内容と実施時期（主な活動を2つのみ記入）						
	部門	大分類	中分類	小分類	実施時期	
データベースに登録する活動分野	学校部門	教育活動	体験活動系	川遊び	7-8月	
			生物調査系	その他	7-10月	

※データベースに登録する活動分野は、助成事業実施の手引き P.47 の一覧表から代表的なものを2つ記入して下さい。

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2019-7111-002	四季の小貝川保育園 4	ラ・フェリーチェ保育園(園長:高橋晃雄)

2019年6月13日	
	<p>フィールド 福岡堰 (小貝川水辺プラザ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小貝川緑地公園が増水し使用できないため、上流の福岡堰で実施。 ・ 事前調査でコイやフナ、アメリカナマズが釣れていたため、リール竿の吸い込み仕掛けで釣りをを行う。 ・ 園長が仕掛けや餌の付け方を指導した。
	<p>フィールド 福岡堰 (小貝川水辺プラザ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水位が高いため、安全な橋の上から釣りをを行う。 ・ 園長がリールの使い方や仕掛けの投げ入れ方を指導した。 ・ 増水の影響のためか魚は釣れなかった。
2019年7月29日	
	<p>フィールド 潤沼(親沢公園キャンプ場付近)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 長雨による増水で小貝川が利用できないため、水辺キャンプを潤沼(茨城町)に変更。 ・ 14時から16時まで、園長と保育士の指導の下川遊びを行った。 ・ 長雨の影響で潤沼の水位も高かったが、流れは穏やかで安全に遊べた。(潤沼は、潤沼川の下流にある汽水湖のため、潮の満ち引きで流れが生じる)



フィールド 潤沼(親沢公園キャンプ場付近)

- 川遊びと並行して、タモ網を使った生物探しを行った。
- ハゼやヌマエビを採ることができた。



フィールド 潤沼(親沢公園キャンプ場付近)

- テント設営と夕食の後、潤沼湖畔で生物探しを行った。
- 夜行性のクロベンケイガニやヒキガエルを見つけて観察した。

2019年7月30日



フィールド 潤沼(親沢公園キャンプ場付近)

- 5時に起床して、魚釣りを行った。
- イナ(ボラの幼魚)を追って回遊してきたセイゴ(スズキの幼魚)を全員釣りあげることができた。



フィールド 潤沼(親沢公園キャンプ場付近)

- キャンプ場近くの潤沼水産(代表:野口浩美氏)の協力で通常は禁漁となっているシジミを採らせてもらうことができた。
- 採集したシジミは、子ども達が持ち帰り、自宅で味噌汁にした。



フィールド 潤沼(親沢公園キャンプ場付近)

- ・ 野口浩美氏がシジミ漁で用いている漁船に子どもたちを交代で乗せて、遊覧してくれた。

2019年8月22日



フィールド 潤沼(親沢公園キャンプ場付近)

- ・ 絵日記から子ども達がシジミに関心を持っていることが分かり、また小貝川が増水しているため、川遊びのフィールドを小貝川から潤沼に変更した。
- ・ 10時から約一時間、川遊びを行った。



フィールド 潤沼(親沢公園キャンプ場付近)

- ・ 川遊びの後、シジミ採りを行った。
- ・ シジミは、観察後に放流した。
- ・ 生物探しでは、ハゼやクロベンケイガニが採れた。



フィールド 潤沼(親沢公園キャンプ場付近)

- ・ シジミに大きさの違いがあることに気付いたことから、紙皿に採取したシジミを大きさ順に並べ、物差しで大きさを測った。

2019年10月10日



フィールド 乙戸沼公園

- 乙戸沼公園(土浦市)の釣りが許可されている場所で魚釣りを行った。
- 延べ竿を使ったウキ釣りで、エサはミミズを使用した。
- 指導者が釣り方の説明とエサの付け方を指導する。



フィールド 乙戸沼公園

- 子どもは、二人一組になり、指導者の指導の下、交代で釣りをした。



フィールド 乙戸沼公園

- 釣れる魚は、ブルーギルが多かったが、モツゴも釣れた。
- 全員が魚を釣ることができた。
- エサを付けたまま置いておいた釣竿に大きな魚がかかり、釣竿が水中に引き込まれてしまった。

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2019-7111-002	四季の小貝川保育園 4	ラ・フェリーチェ保育園(園長:高橋晃雄)

河川教育の目標

- ① 自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。
- ② 季節による四季変化に気付く。
- ③ 生命の尊さに気付き、いたわり、大切にす。
- ④ 感じたことや考えたことを自分なりに表現する。

子どもの変容を捉える視点と方法

絵日記で表現されている、感動や自然の美しさ、不思議さ、四季の変化、生物に対する子どもの気持ちから、好奇心や思考力の変化を捉える。

対象者

思考力の芽生え、運動機能の高まり、目的のある集団行動に配慮して、5歳児6人(男子2人、女子4人)を対象とする。

6人とも、運動機能に差はあるが健康。生活習慣を取得し、人間関係は良好。身近な事項に関心を持ち、積極的に行動できる。

また3歳からの読み聞かせやドリル等による指導により、ひらがな、カタカナの読み書きができる。

フィールドとプログラムの変更

2019年の梅雨期間は、6月7日から7月28日までと長く、梅雨明けは、昨年より30日、平年より8日遅かった。また千葉県・茨城県に大きな被害をもたらした台風15号、19号のため、予定していた小貝川(取手市)での活動が不可能になった。

そのため、フィールドを増水しても安全に活動できる涸沼(茨城町)に変更した。

活動期間は、6月から12月を予定していたが涸沼周辺が台風19号による大規模な冠水被害に見舞われたため、以降の活動を中止した。

10月は、台風の影響がなく、釣りが許可されている、都市公園の乙戸沼公園(土浦市)で釣りを行った。

〔涸沼〕

那珂川水系涸沼川の下流に位置する関東唯一の汽水湖。水質は良好で湖畔の親沢公園には、キャンプ場と砂浜がある。

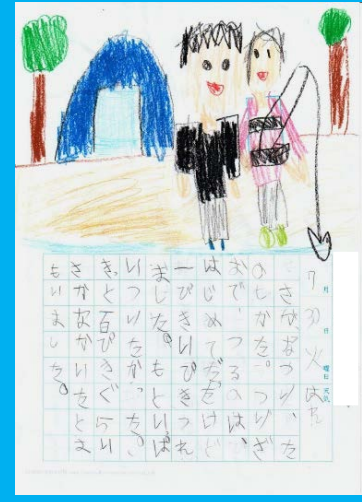
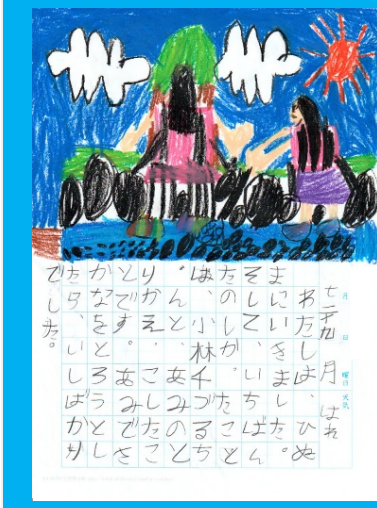
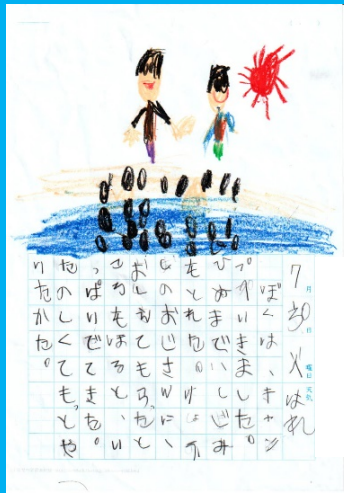
フナ、ナマズなどの淡水魚やクロダイ、ハゼ、ボラ、ニシンなど105種の魚類が確認され、ヤマトシジミの全国的な産地となっている。

鳥類は、86種が確認されている。鴨や雁などの水鳥、シギやチドリなどの渡り鳥が湿地などによくみられ冬場には猛禽類であるオオワシやオジロワシも見られる時がある。

植物は、水生植物など398種が確認され、2015年にラムサール登録湿地となっている。

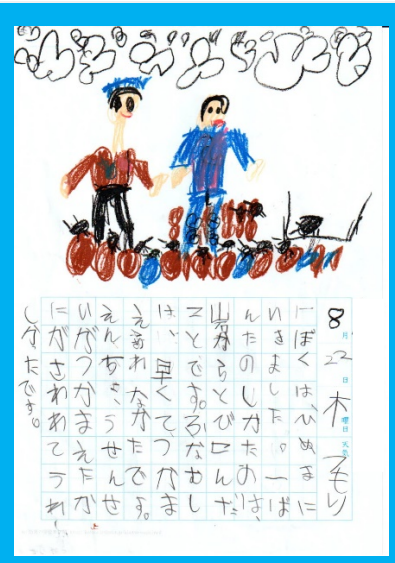
活動日 2019年7月29-30日

活動内容 川遊び・生物探し・魚釣り・シジミ採り・漁船乗船体験・漁師さんの話を聞く・宿泊体験



活動日 2019年8月22日

活動内容 川遊び・生物探し・シジミ採り



絵日記の分析

絵日記から、河川教育の目標である、①自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く、②季節による四季変化に気付く、③生命の尊さに気付く、いたわり、大切にすること、④感じたことや考えたことを自分なりに表現する、に該当する文章と絵の内容を抽出する。

① 自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。	
文章	絵の内容
<ul style="list-style-type: none"> ・ きっと百びきぐらいさかながいたとおもいます。 ・ 足がつかなくなるぐらいふかいところまで、行きました。 ・ あみでさかなをとろうとしたら、いしばかりでした。 ・ 岩のすきまにあみをいれたらさかながとれました。 ・ さいしょのばしょは、しじみがとれなかったけど、つぎのばしょではいっぱいとれました。 ・ りょうしのおじさんに、おしえてもらったところをほると、いっぱいできてきた。 ・ ふなむしは、早くてつかまえられなかったです。 ・ 手を入れてすなをとるとすなの中に貝がありました。 ・ さかなたちは、みんないなくなっていて、一びきもみつけれませんでした。どこにいったのかな。 ・ さいしょは、つれなかったけれど、場しょをいどうしたら、かぞえきれないくらいつれました。 ・ おいてあったつりざおが、わからない生きものにひっぱられて、水の中に入ってなくなってしまいました。びっくりしました。 ・ みみずは、くねくねしていて気もちわるかったけどずっと見ていました。 ・ さわろうとしたら、さかながひれを、ふりふりしてたからくすぐったくなっちゃいました。 ・ (魚を)さわると、ぬるぬるしていて、気もちがよかったです。 ・ かめが、つめがとんがっていて、はがぎざぎざしていてこわかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水底に足がつかない様子。 ・ 川底にシジミがたくさんある様子。 ・ 岩の間に魚がいる様子。 ・ シジミをたくさん採っている様子。 ・ 両手いっぱいシジミが乗っている様子。 ・ 岩の上のフナ虫を見ている様子。

② 季節による四季変化に気付く。	
文章	絵の内容
<ul style="list-style-type: none"> はれていたのでもぶしかったです。 水からあがるとさむかったので、すぐに水の中に入りました。 さむくなったので（涸沼から）あがってごはんをたべました。 	<ul style="list-style-type: none"> 太陽が出ている様子。

③ 生命の尊さに気付き、いたわり、大切にする。	
文章	絵の内容
<ul style="list-style-type: none"> 一ばんたのしかったことは、おさかなさんのおせわをすることでした。 	<ul style="list-style-type: none"> バケツの中で魚が泳ぐ様子。

④ 感じたことや考えたことを自分なりに表現する。(文章)	
<ul style="list-style-type: none"> いちばんたのしかったのは、水あそびです。 いちばんたのしかったのは、しじみとりです。 またいきたいです。 もっといっぱいつりたかった。 とてもうれしかった。 ライフジャケットをきていたので、じぶんでおよげたのしかった。 一ばんたのしかったことは、おひるごはんをたべることでした。 一ばんたのしかったのは、岩からとびこんだことです。 かにかがさわれてうれしかったです。 水あそびがおもしろかった。 一ばんたのしかったことは、貝ひろいです。 とてもたのしかったのは、魚つりです。 もっともつりたかったです。 ぼくは、二ひきつれてとてもうれしかった。 すぐくたのしかったです。 一ぴきは、うきがしずむところから、魚についた糸をひっぱるところまで一人でやりました。とてもうれしかった。 	

河川教育と子どもの変容に関する考察

① 自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。

涸沼でキャンプを実施した7月29-30日は、大量のボラの幼魚がキャンプ場前の浅瀬を回遊し、それを捕食するスズキも多く見られた。

その光景を子どもは、「きっと百ぴきぐらいさかながいたとおもいます。」と表現した。しかし、8月22日には、同じ場所で魚を見つけることはなく、「さかなたちは、みんないなくなっていて、一ぴきもみつけられませんでした。どこにいったのかな。」と自然の大きさと不思議さへの気付きを表現している。

シジミ採りでも、「さいしょのばしょは、しじみがとれなかったけど、つぎのばしょではいっぱいとれました。」「りょうしのおじさんに、おしえてもらったところをほると、いっぱいできてきた。」、と同様に見える水面からでは分からない、底質の違いによるシジミの分布から自然の不思議に気付いている。また絵で表現している「川底にシジミがたくさんある様子。」「シジミをたくさん採っている様子。」「両手いっぱいシジミが乗っている様子。」から涸沼の自然の豊かさ（大きさ）にも気付いている。

同様の気付きは、10月10日の魚釣りでも「さいしょは、つれなかったけれど、場しょをいどうしたら、かぞえきれないくらいつれました。」「おいてあったつりざおが、わからない生きものにひっぱられて、水の中に入ってなくなってしまいました。びっくりしました。」と表現されている。

また、直接触ること(感覚)によって生物への気付きがより顕著になる。シジミ採りでは、「手を入れてすなをとるとすなの中に貝がありました。」魚釣りにおいて、「みみずはくねくねしていて気もちわるかったけどずっと見ていました。」「さわろうとしたら、さかながひれを、ふりふりしてたからくすぐったくなっちゃいました。」「(魚を) さわると、ぬるぬるしていて、気もちがよかったです。」など、生物に直接触れることによって、はじめてその不思議さに気付いている。

② 季節による四季変化に気付く。

涸沼で川遊びを実施した7月29日は、梅雨明け当日で、真夏に入ったことを「はれていたのでもぶしかったです。」と表現している。8月22日に同じ場所で実施した川遊びでは、「水からあがるとさむかったので、すぐに水の中に入りました。」「さむくなったのであがってごはんをたべました。」と水温の変化から四季の変化に気付いている。

また7月29-30日の日記で、6人中4人が太陽を描いているが、8月22日は、晴れていたにもかかわらず太陽を描いたのは1人である。太陽を描かないことで、季節の変化を表現していると考えられる。

③ 生命の尊さに気付き、いたわり、大切にす。

生物に対するいたわりが表れているのは、10月10日に実施した魚釣りでの、「一ばんたのしかったことは、おさかなさんのおせわをすることでした。」である。釣った魚が多くなり、バケツが酸素欠乏になると、釣りを止めて、より広い容器に移し替えたり、水を取り替えていた子どもが記載した。

また魚が入っているバケツと自分も描いている。

魚釣りに夢中になっている子ども達のなかで、この子どもは、釣りの楽しさよりも魚をいたわり、大切にしようとする気持ちを優先している。

④ 感じたことや考えたことを自分なりに表現する。

水辺での体験活動で感じた感覚や気持ちが文章に多くあらわされている。また体験活動時の印象に残った風景や状況が描かれている。

水辺での体験活動で感じた感覚や驚きが子どもの情動と事象を表す言葉と絵画表現の原動力となっているのではないか。

同じ経験をした子ども達の話合いのなかで見たり、聞いたり、感じたり、考えたりしたことを自分なりの言葉で表現していく過程がイメージや言葉を豊かにしていると考えられる。

本事業でのプログラムを体験した子どもたちは、河川教育の4つの目標に対して、肯定的な変容が認められた。

目標のうち、「自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く」、「感じたことや考えたことを自分なりに表現する」については、全ての子どもに変容が見られた。

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2019-7111-002	四季の小貝川保育園 4	ラ・フェリーチェ保育園 園長 高橋 晃雄

主な実施箇所	潤沼(親沢公園キャンプ場付近)
--------	-----------------

助成事業の主な実施箇所



